



## ○ あいさつ

車にはナビが搭載され、スマホには地図アプリなどが搭載されるようになり、旅先などで道を尋ねることも、尋ねられることもめっきり少なくなった印象があります。これまでの経験では、尋ねられるのは、なぜか旅先で同じ旅人からが多く、その次にランニング中でした。共通点を考えると、解放感もあって心に余裕のある状態の時かもしれません。私も心に余裕のありそうな人を無意識に探して尋ねているようにも思います。



とはいえ、いきなり「〇〇はどうやって行けばいいですか」とは話しかけません。「すみません」とか「こんにちは」という挨拶を最初に入れると思います。英語では「Excuse me」が多いでしょうか。

昨年度の校長室だより第20号(2学期終業式講話)でも触れましたが、昨年度訪れた先で、朝のランニング中に、すれ違う人の多くが自ら積極的に挨拶されたのが宮崎でした。面接での入退出の挨拶は、ある意味儀式的なものかもしれませんが、そこには人間性などが映し出され、そのことも判断されているという話もしました。人間性は面接練習では養えないもので、普段の生活や心持ちなどが出てくるとしています。私自身、心に余裕を常に持てる人となって、いつでも誰からでも尋ねられやすい人になれればと思っています。そういえば、この前出張先の大分で歩いていたら、地元ナンバーの運転手から公衆トイレの場所を尋ねられ、少し嬉しい気持ちになりました。力にはなれませんでしたけど……

夏休み中にいろんな工事関係者の方が東高に出入りされました。ある朝、業者さんの一人が生徒に「おはようございます」と挨拶されましたが、返答がなく、次に会った生徒には挨拶をされず、その生徒も挨拶をせずにすれ違っていく場面に遭遇しました。その業者さんは、東高にどんな印象を持たれたのでしょうか。

翻訳アプリが普及してきましたが、海外旅行程度なら「こんにちは」と「ありがとう」の現地語だけ知っていれば、あとは身振り手振りでなんとかなるというような話を聞いたことがあります。

出雲地方には「ばんじまして」という出雲弁の挨拶言葉があります。どこか温かみのある感じがします。沖縄ではハイサイおじさんで有名になった「ハイサイ」という挨拶言葉があります。どこか陽気で親しみやすい感じがします。

あいさつにはどこか人の警戒心を解くところがあります。それは逆に自分もあなたへの警戒心を解いていますよというメッセージにもなっているように思います。そこから信頼関係が生まれていきます。

あいさつを交わしたあとで道を尋ねるといことは、あなたの教える事を信じますということにもつながっていると思います。授業の最初にあいさつをして始めます。「お願いします!」というあいさつがあった状況ではじまった授業と、あいさつがない状況ではじまった授業とでは、雰囲気も理解度も変わってくると思うのは私だけでしょうか……